上田西 死闘制し決勝へ

千西一週
号外
号外（第60号）
発行
2019年
10月28日（月）
上田西高校
新聞委員会編集局
編集局長 下谷梓

奈良本梓
召田りん花
松木萌愛
宮島純夏

両者譲らぬ熱戦　延長戦でも決着せず
ＰＫ戦で市立長野を下し３年連続決勝進出

後半７分、同点のゴールを決め、控えメンバーの元へ駆け寄る上田西のＦＷ宮澤珠輝（写真中央）撮影＝宮島純夏

10月26日（土）に松本市のサンプロアルウィンで第98回全国高校サッカー選手権大会長野予選準決勝が行われ、上田西は市立長野と対戦した。試合は前半10分に市立長野が先制するが後半7分上田西が追いつき、1対1のまま延長戦に突入。PK戦までもつれ込む接戦を4対1で制し、見事上田西が勝利した。上田西の次戦は松本国際と。決勝戦は11月2日（土）12時からサンプロアルウィンで行われる。（松木萌愛）

▽全国高等学校サッカー選手権大会
長野県予選準決勝
上田西　１（４―ＰＫ―１）１　市立長野

戸板、PK 止めた

失点は許したものの安定したプレーを見せた上田西ＧＫの戸板海。ＰＫ戦では市立長野の２人目のキックに素早く反応し、見事にゴールを守った。撮影＝奈良本梓

決勝進出をかけた試合は延長戦までもつれたが、決着はつかずＰＫ戦へ突入した。先攻は上田西で、まずはＤＦ昊谷優大（進学３年＝上田第四）が冷静に決めた。対する市立長野の前に立ちはだかったのが、上田西ＧＫ戸板海（進学２年＝沖縄・浦添市立西）だ。「止めたらスーパーヒーローになれる」と考えていたという戸板。市立長野の２本目のＰＫに対し反応すると見事ゴールをセーブした。市立長野の３本目のＰＫもゴールポストをたたき、決勝進出をかけた死闘は上田西が４対１で勝利した。勝利の立役者戸板は「相手の心理を読むために目を見た。試合中の相手キッカーのプレーからだいたいのコースを読んでいた」とＰＫ戦を振り返った。

決勝の相手松本国際は圧倒的な攻撃力でここまで勝ちあがってきている。決勝戦について戸板は「入りがかなり重要になり、立ち上がりに得点する、失点しないことでこっちに流れが来ると思う。後はいつも通り全員攻撃、全員守備、絶対失点しないって気持ちがあれば絶対に勝てると思うので仲間を信じて頑張りたい」と意気込みを語っていた。（奈良本梓）

宮澤、同点弾

早々に失点し、市立長野のペースで終了した前半。上田西イレブンは、ハーフタイムに白尾秀人監督から「西高らしくやれば必ず1点取れる。死ぬくらいの気持ちでやれ」という指示を受け、後半を迎えた。すると後半7分に待望の瞬間は訪れた。ＭＦ北澤拓也（進学2年＝上田第三）が相手のペナルティーエリア右でボールをキープし、相手選手2人をひきつける。そして空いたスペースに走りこんできたＦＷ宮澤珠輝（進学3年＝長野東部）に北澤からのヒールパスが通った。宮澤はこれをしっかり決めて、上田西が同点に追いついた。

北澤とは普段から仲が良いという宮澤。ゴールシーンについては、「ゴールは練習してきた形ではない」と控えめに話した。さらに「あそこにボールが出た時に「これは来た」と思った。パスを受けたあとは冷静にキーパーの位置を見極め、ゴール左隅に決めた」と続けた。決勝戦については「我慢強く守り、カウンターをどれだけ仕掛けられるかがポイントになる」と話した。（召田りん花）

流れを変えた白尾采配

準決勝の上田西のフォーメーションは4-3-3、対する市立長野のフォーメーションは4-4-2。前半上田西は中盤の数的不利から相手の両サイドにプレッシャーをかけることができず、積極的な攻撃を許した。

しかし、後半、ＤＦ篠原颯（進学3年＝青木）とＭＦ市川尚也（進学3年＝更埴西）が投入されると、流れは上田西に傾く。市川と篠原が前線からの激しいプレッシャーを相手に与え、攻撃の芽を摘んだ。セカンドボールも上田西が支配する場面が増え、後半は終始上田西ペース。後半7分ＦＷ宮澤がシュートを決め試合を振り出しに戻した。メンバーチェンジも決勝の見所となりそうだ。（松木萌愛）